



年 組 名前

道新でワークシート

9月の日照 記録的短さ

十勝の全観測地点、平年下回る

帯広69時間 過去2番目に少なく

9月の十勝は全18観測地点で日照時間が平年を下回り、帯広市内は1900年(明治33年)の統計開始以来、9月としては過去2番目に少ない69・3時間にとどまった。北海道付近で偏西風が大きく蛇行し、オホーツク海上に高気圧が居座ったことで、海上から湿った空気が入りやすかったため、十勝を含む太平洋側で記録的に少なかった。

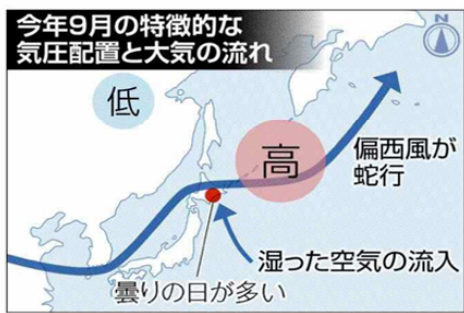
(水野薫)

偏西風大きく蛇行

帯広で9月の最も日照時間が少なかったのは1902年(明治35年)の56・2時間。今年9月の管内の日照時間は、新得町が平年比

45%減の76時間、音更町駒場が同46%減の77・6時間、中札内村上札内が同44%減の77・8時間。いずれも9月としての過去最少を更新した。

は、上空の偏西風が平年よりも北海道付近で大きく北に蛇行したことで、北海道西側の気圧が低く、東側が高くなる傾向にあった。その結果、オホーツク海上に高気圧がとどまり、管内に東から南寄りの湿った風が入りやすく、ぐずついた天気が続いた。
例年、秋は太平洋側を移動性の高気圧と低気圧が交互に通過し、周期的に天気が変わるのが特徴。同測候所の吉田正博予報官は「10月以降は偏西風の蛇行が大きくないので、例年通りの秋晴れが戻ってくるのでは」と話す。



道内主要22観測地点の日照は、帯広市が最も少なく同52%減の69・3時間、続いて広尾町の同38%減の84・4時間。札幌市は同13%減の140・1時間、旭川市が同4%減の136時間、網走市は同3%減の160・2時間で、太平洋側の少なさが目立った。帯広測候所によると9月

また、気象庁が発表した冬の天候(12月～来年2月)の見通しによると、十勝を含む北日本太平洋側は、低気圧の影響を受けやすく、降水量は平年並みが多い見通し。道内の太平洋側を東に進む「南岸低気圧」が多くなれば、冬型の気圧配置が長続きせず、雪が降りやすくなるとみられる。



年 組 名前

道新で
ワークシート

①見出しにあるように「9月の日照 記録的短さ」になったのはなぜでしょう。

に当てはまる言葉を書きましょう。

(ア) 北海道付近で偏西風が大きく北に蛇行したことで、北海道西側の 、
東側が 傾向に

(イ) に が居座ることに

(ウ) 海上から が入りやすくなった

(エ) が続いた

(オ) 日照時間が短くなった

②次の表の空欄に入る数字や言葉を入れましょう。

市町村	帯広市		広尾町		
日照時間		76時間		136時間	160.2時間

③気象庁が発表した十勝を含む北日本太平洋側の冬の天候の見通しについて ()
内の言葉の当てはまるものを○で囲みましょう。

- ・降水量は、(少ない 平年並み 多い)
- ・「南岸低気圧」が多くなった場合、(雨 雪) が降りやすい